

「若手独立研究者育成のための新たな仕組み」について(試案)

【 審議経過について(抜粋) 】

現在、国は、若手研究者に自立と活躍の機会を与えることを目的として、テニュアトラック制の導入を図る機関を支援している。今後は、このような組織に対する支援に加えて、国が国内外から優れた若手研究者を募集・採用し、人件費と研究費を支給するという新たな仕組みを検討。これにより採用された若手研究者はテニュアトラック制を実施する機関が受け入れ、そこで研究を行い、その後は、その機関において次の安定的なポストに移っていくことができることとする。

テニュアトラック制の意義

- ① 教授等のもとで、研究の補助的な役割が多い若手研究者に、もっとも生産性の高いと言われている30代の時期に独立して研究を行うことができる環境を提供。
- ② 選考された若手研究者は、一定の期間、研究を継続し成果を上げれば、受け入れ機関において任期付きでないパーマネントな定年制ポストに移行。このようなパスを用意することで、若手研究者は将来ビジョンを持つことができる。

新制度の意義

- ① 従来の拠点(機関)に選考を任せる方式に比して、国際レベルで高い資質の揃った若手研究者を選考することが可能。
- ② 個人が多数の拠点(機関)の選考を複数回受ける必要がなくなる。
- ③ 選考された若手研究者は質の保障があるため、拠点(機関)側は分野、教育能力など、別の観点のみを考慮に入れて受け入れを決定することが可能となる。
- ④ 人的・物的資源が集中している一部の研究大学(旧帝大、東工大、早、慶)以外の大学には、定年制ポストを用意することで、質的に保証された優秀な若手研究者を確保できる機会となる。また、これらの若手研究者には5年間程度は、国から本人給与と研究費が財源措置され、彼らがその後、外部資金を獲得していけば、間接経費など大学や研究機関にとっても大きなメリットとなる。

【仕組み(22年度試行モデル案)】 ー科学技術振興調整費を活用ー

- ・ 『国の機関』が主体となり、国内外から優れた若手研究者を「テニユア・トラック教員」の候補者として、募集・選考。
対象は博士課程修了後、数年間研究を行っている30代前半の若手研究者とする。
- ・ ポスドクの分野別比率では「ライフサイエンス」分野が約40%と大きなシェアとなっていることを踏まえ、今回の試行においては、『国の機関』は、特に「ライフサイエンス」の分野で候補者を募集し、選考する。
- ・ 『国の機関』は同時に、若手研究者を「テニユア・トラック教員」として受け入れる大学・研究機関の募集を行う。
この際、若手研究者と大学等の間におけるマッチングが円滑に行われるよう、受け入れを希望する大学等は、当該大学等において若手研究者に求める研究領域等を『国の機関』に提出する。『国の機関』は若手研究者の募集にあたり、受け入れを希望する大学等の名称及びそこでの研究領域等を示し、若手研究者はそれを踏まえて申請できるようにする。
受け入れる大学等には、研究スペースの確保、定年制ポストの確保、研究支援者等の支援体制の整備を条件とする。『国の機関』は受け入れを希望する大学等が、このような条件を満たしているかどうかをチェックする。
※なお、国の競争的資金による事業（グローバルCOEプログラム等）において、上記の候補者から適任者を積極的に受け入れることが望ましい。
- ・ 『国の機関』は選考の結果を、若手研究者と受け入れを希望する大学等の各々に通知することにより両者のマッチングの機会を提供し、調整の整った大学等は若手研究者を「テニユア・トラック教員」として採用する。
※大学・研究機関が主体となって、希望する候補者の中から採用を決定する。
※若手研究者が予め受け入れる大学等と調整の上で申請することも可。
- ・ 選考された若手研究者は、5年間程度、国から研究資金（研究者自身の給与費・サポート人件費、スタートアップ経費も含まれる）が交付される。
- ・ テニユア・トラックの期間、一定の成果をあげた後は、当該大学等が用意した定年制ポストで研究を実施。

このモデルを実施して明らかとなった課題などを調査、研究して、よりよい「テニユア・トラック」制度の検討を進める。